

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 淀川区

学 校 名 野中小学校

学校長名 打川和美

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・野中小学校では、第6学年 46名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科については、大阪市の平均正答率より1ポイント、全国より2.8ポイント低い結果であった。項目別で見ると、「我が国の言語文化に関する事項」では大阪市より2.7ポイント高く、全国より1.4ポイント高い。「話すこと・聞くこと」では、大阪市の平均正答率より3.4ポイント高く、全国より1.1ポイント高い。しかし「読むこと」では、大阪市の平均正答率より5.3ポイント低く、全国との差も5.9ポイントあった。他に課題がある項目としては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」もあげられる。算数科については、大阪市及び全国の平均正答率より2ポイント低い結果であった。項目別で見ると、「測定」では、大阪市の平均正答率より0.5ポイント、全国より0.6ポイント高い結果であったが、「変化と関係」では、大阪市より7.5ポイント低く、全国より6.8ポイント低い。他の項目「データの活用」「数と計算」においても課題が見られる。理科については、大阪市の平均正答率より3ポイント高く、全国より0.9ポイント高い結果が得られた。項目別にみると、大阪市の平均を全て上回っている。「『生命』を柱とする領域」については、全国よりも0.2ポイント高い結果である。全国平均との差があるものとしては、「『粒子』を柱とする領域」において、0.3ポイント下回った結果であった。

分析から見てきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」では、大阪市や全国平均よりも高く、指導の成果が表れていると言えるが、「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」については、課題がある。「書くこと」については、ブロック学力推進事業及び淀川区の事業である5・6年生で漢字検定の取り組みも活用し、児童の学習意欲を高めながら、学力の向上を図っていく必要がある。

〔算数〕

「測定」では、大阪市及び全国よりも高い結果が得られたが、「変化と関係」「データの活用」「数と計算」において、課題がある。これからも、習熟度別学習に学習形態を活用しながら、個別最適な学びを推進していく必要がある。

〔理科〕総合的に大阪市及び全国より高い結果が得られた。今までの指導において専科教員や学年内教科担任制による学習スタイルを取り入れたことや、理科室の整備等、学習環境の充実も児童の学力の向上により影響を与えたのではと考えられる。

質問調査より

「理科の授業はよく分かりますか」という質問に対して肯定的に答える児童の割合が全国及び大阪市より高い結果であり、理科の平均正答率が高い結果につながっていると考えられる。しかし、「算数の授業はよく分かりますか」の質問に対して肯定的に答える児童の割合も、大阪市より8.9ポイント全国より10.8ポイント高いが、平均正答率の高さには、つながっていない。国語についても、「よく分かる」と肯定的に答える児童が全国より多いが、平均正答率の高さには、つながっていない。児童自身に自分の学力に関する躰きや課題を掴ませる必要も感じられるが、より個に応じた指導、ポイントを絞った指導を行っていく必要もある。本校の課題である自尊心・自己肯定感については、「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に肯定的に回答する児童が78.3%であった。全国や大阪市の平均より少ないが、昨年度(75.5%)に比べ、今年度も改善傾向を示している。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に肯定的に回答する児童が97.8%ととても高く、全国や大阪市よりも高い。また、「将来の夢や目標を持っている」児童も多く、学校として、色々な機会を捉えて子どもたちの良いところを認める取り組みが向上につながっていると考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

○学力の基礎となる国語力については、総合的読解力を向上させる取り組みに力を入れ、「読む力」をつけていく必要がある。また、「書く力」の向上を目指し、引き続き「ブロック学力推進事業」や区の取り組みである漢字検定を有効活用し、漢字の習得を通して、書く力の向上と学習に対する意欲の向上を図っていく。

また、算数科については、特に課題があった「変化と関係」等の改善を目指し、習熟度別少人数学習で、児童自身が発展活用コースや基礎基本のコース等、自分にあった学習コースを選べるようにしながら、きめ細やかな指導、個に応じた指導を行っていく。

○教員の授業力を高めるため、校内研修を計画的に実施し、主体的・対話的で深い学びの推進を図ることができるようにする。

- ・若手教員の研修会を充実させ、指導力の向上を図る。

- ・個別最適な学びができるよう、各教科、単元におけるＩＣＴ機器の効果的、積極的な活用を図るとともに、学習端末を持ち帰り、自分に合った家庭学習ができるようにする。

○児童の規範意識を高めたり、心の育成を図ったりすることで、望ましい人間関係を築く。

- ・道徳の時間を活用することで、人権学習に力を入れ、自信を持って行動し、人の役に立ちたいと思える児童を育成する。

- ・研究教科である図画工作科を通して、対話により見方や感じ方を広げることで、自分の思いを表現し、互いの多様さを認め合える児童を育てる。

- ・各学級、学年で望ましい人間関係づくりを行い、コミュニケーション能力を養う。

- ・学校行事や、学年、学級の中で、児童の良いところを認め、自尊心・自己肯定感を養うことのできる活動を取り入れることで、楽しい学校、学級づくりを行っていく。

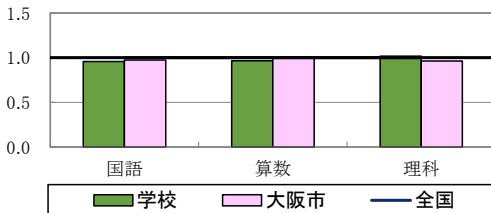
- ・地域や関係諸機関との協力体制を構築することで、協力して児童の心身の育成を図る。

【 全体の概要 】

平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	64	56	58
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

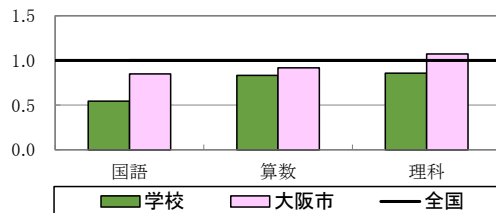
平均正答率(対全国比)



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	1.8	3.0	2.4
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

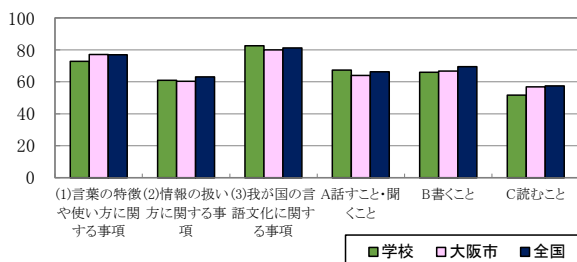
平均無解答率(対全国比)



【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	2	72.8	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	60.9	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	82.6	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	67.4	64.0	66.3
B 書くこと	3	65.9	66.7	69.5
C 読むこと	4	51.6	56.9	57.5

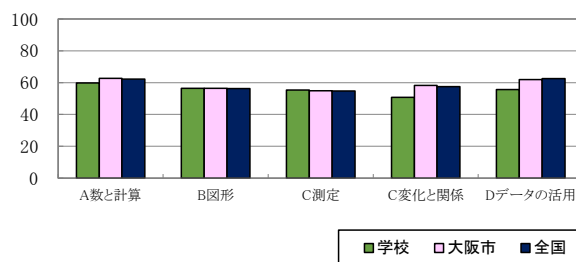
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



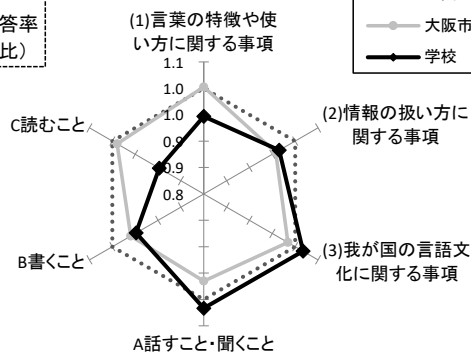
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	59.8	62.7	62.3
B 図形	4	56.5	56.4	56.2
C 測定	2	55.4	54.9	54.8
C 変化と関係	3	50.7	58.2	57.5
D データの活用	5	55.7	61.9	62.6

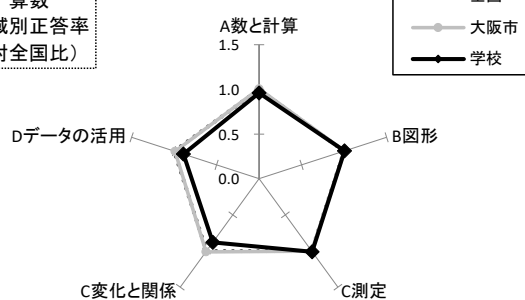
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 内容別正答率 (対全国比)

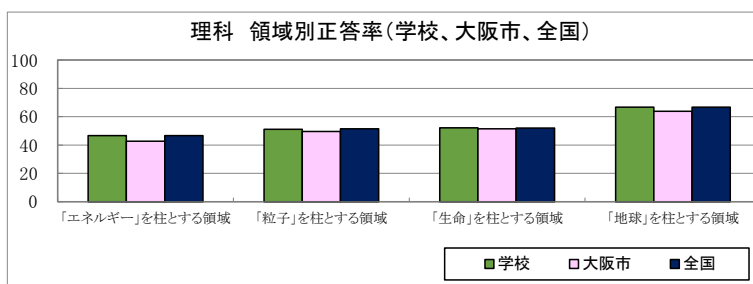


算数 領域別正答率 (対全国比)

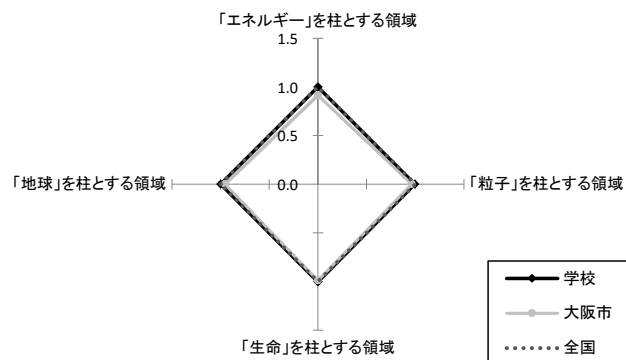


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	46.7	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	51.1	49.5	51.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	52.2	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	66.7	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



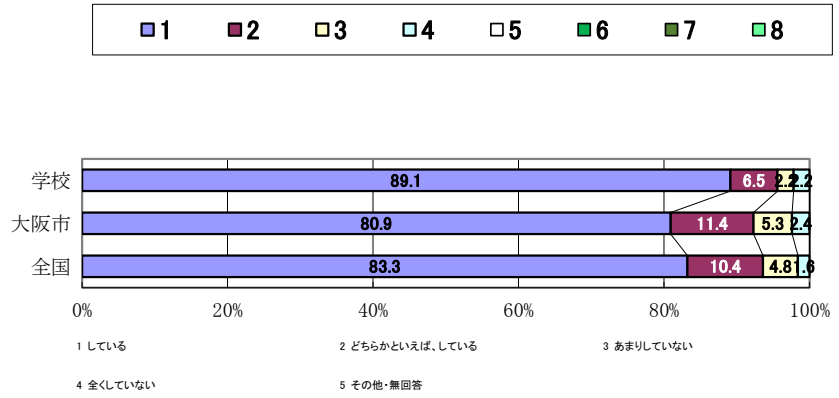
児童質問より

質問番号

質問事項

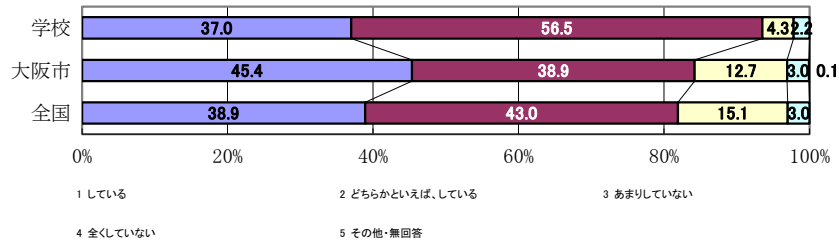
1

朝食を毎日食べていますか



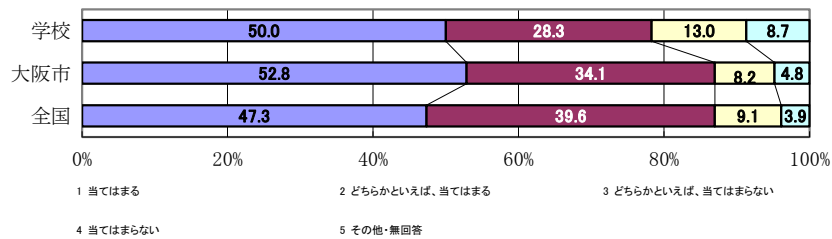
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



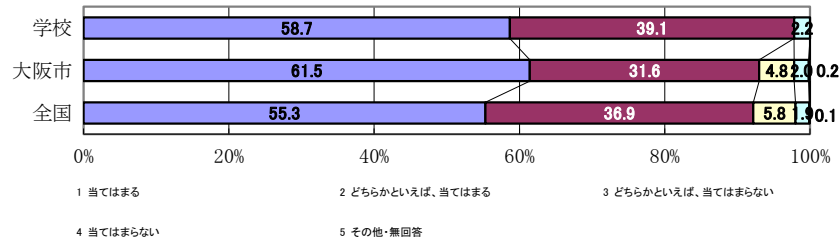
5

自分には、よいところがあると思いますか



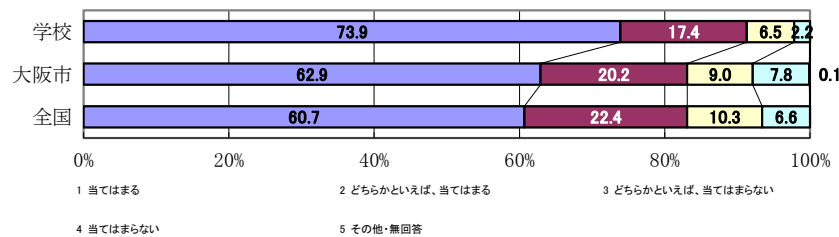
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



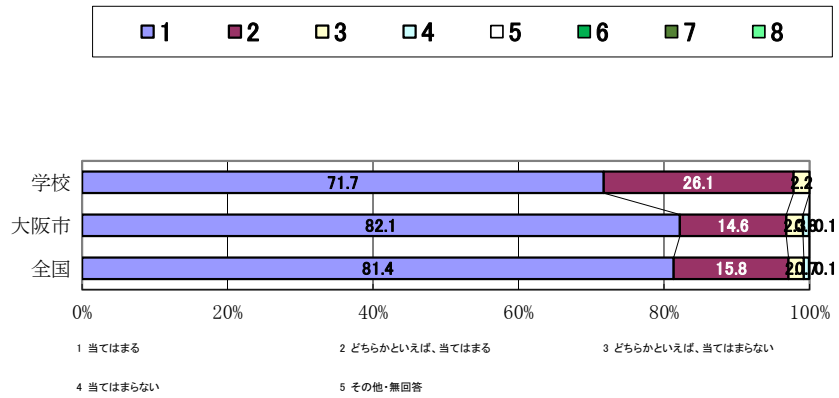
児童質問より

質問番号

質問事項

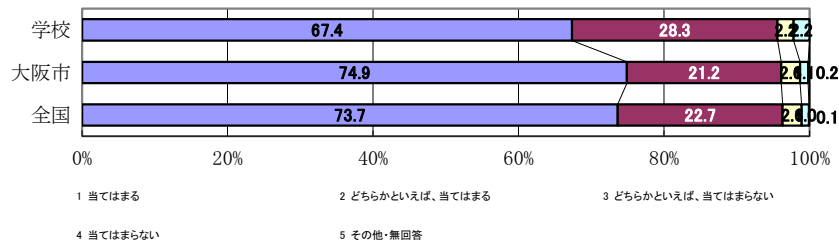
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



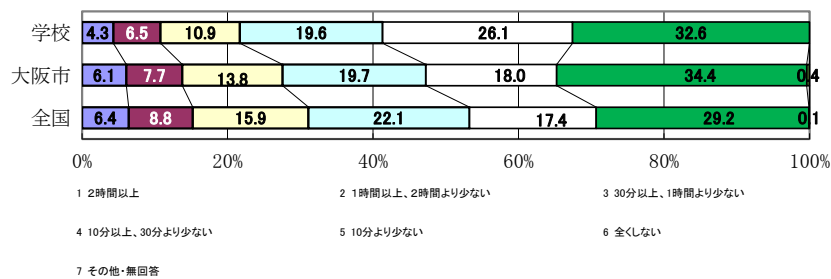
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



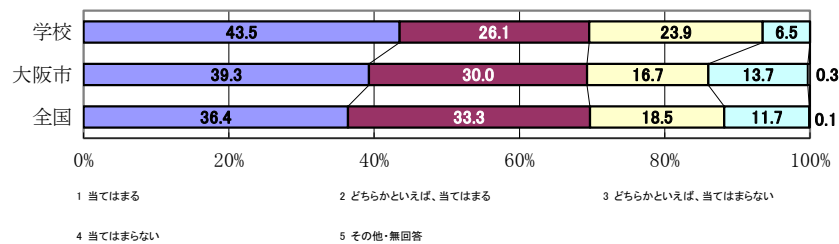
21

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）



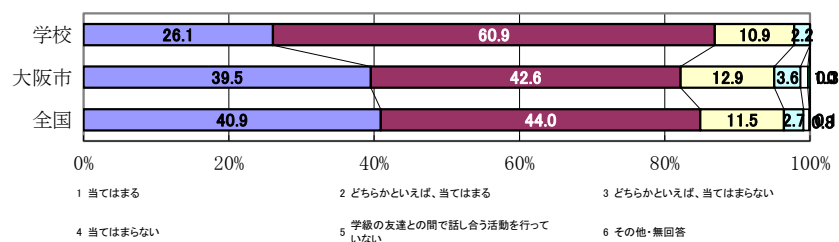
24

読書は好きですか



35

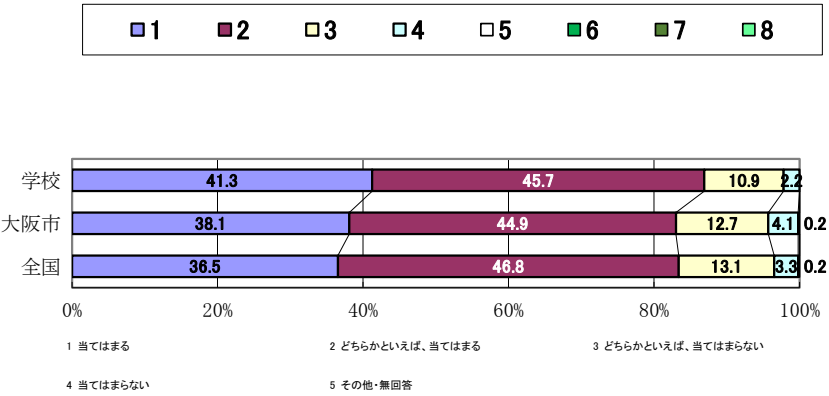
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



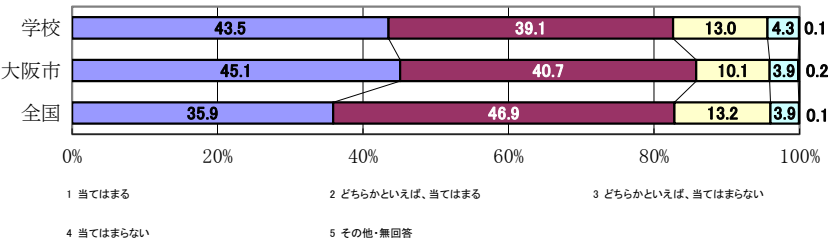
児童質問より

質問番号
質問事項

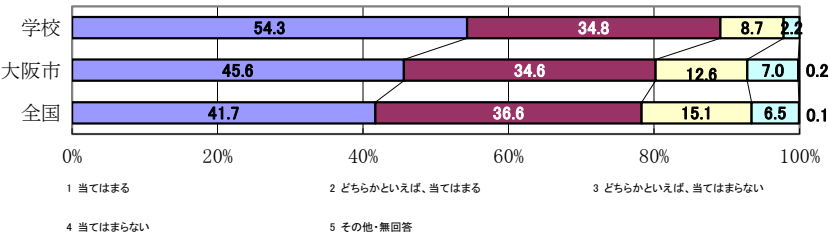
41
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



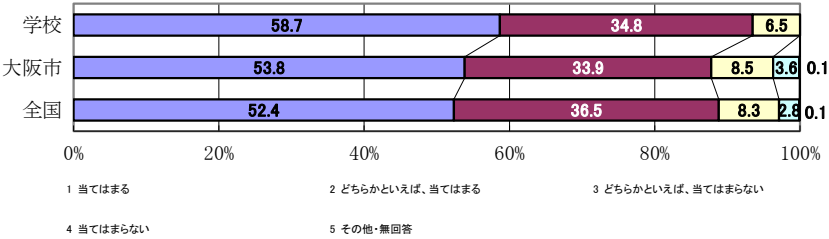
46
国語の授業の内容はよく分かりますか

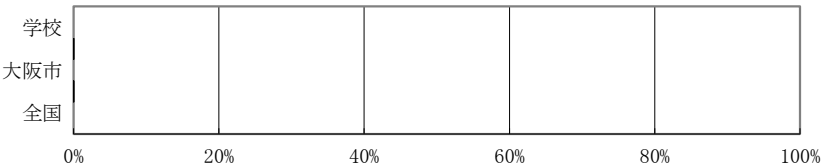


54
算数の授業の内容はよく分かりますか



62
理科の授業の内容はよく分かりますか





学校質問より

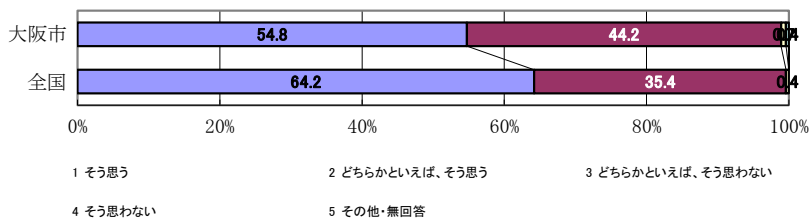
質問番号

質問事項

21

学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか

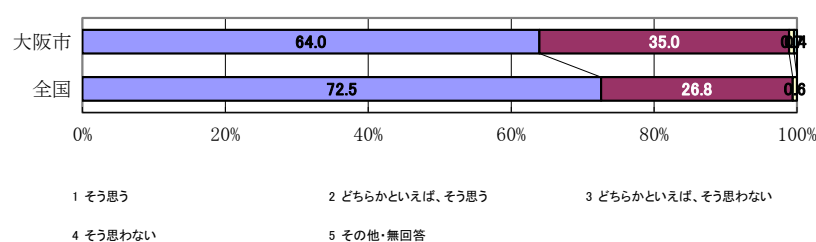
学校 「そう思う」を選択



23

教職員が困っているとき、管理職と教職員との間で随時相談できるなど組織的に対応する体制を構築していると思いますか

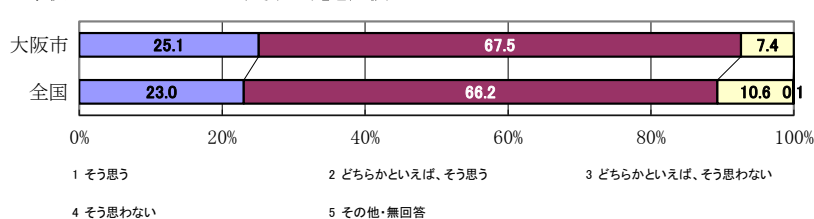
学校 「そう思う」を選択



27

調査対象学年の児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

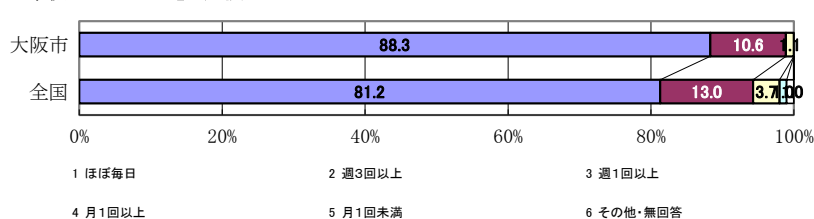
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



55

前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



56

教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会はありますか

学校 「ある」を選択

